

核兵器のない世界へ 想像してみよう

被爆71周年の本年、米国のオバマ大統領が、現職では初めて被爆地・広島を訪問しました。平和記念公園で原爆慰霊碑に献花をし、「71年前、雲一つない明るい朝、空から死が落ちてきて、世界は変わった」とスピーチを始めました。スピーチの中では「私の国のように核を保有している国々は、恐怖の倫理から逃れ、核兵器なき世界を追求する勇気を持たなければならぬ」とも述べました。

唯一の核兵器による被爆国である日本ですが、戦争・被爆体験者など当時を知る人が少なくなってきました。あの時、きのこ雲の下で何が起きていたのでしょうか。核兵器なき世界が実現するまで、私たちが「できること」「すべきこと」は何でしょうか。当時の状況を知る人に話を聞き、戦争が起きた時のことを想像してみましよう。

戦争・被爆体験者の話

庄原市山内地区原爆被害者の会
副会長
土井昭二さん
(山内町・89歳)



きのこ雲の下で起きていた事実
庄原実業学校【注1】を卒業してすぐの昭和18年1月6日から、広島市皆実町の広島地方専売局【注2】に勤めていました。昭和20年8月6日午前8時15分、出勤して仕事の準備をしているところでした。

突然窓の外が光り、かがんで隠れましたが、すぐに爆発音と爆風がきて建物のガラスが飛び散りました。普通の爆弾であれば地響きがありますが、その時はありませんでした。広島地方専売局は爆心地から約2キロメートルほどの場所にありましたが、すさまじい爆風を受けました。建物の構造が鉄筋コンクリートであったことや、職場が建物の奥の方であったため、ガラスも体にはあまり刺さりませんでした。

しばらくして、建物の屋上にいた当時の同僚が「やられた」と言いながら階段を下りてきました。帽子をかぶっていたところから下がやけどして髪がなくなっており、腕の皮もぶらさがっていました。腕を下げると腕が体にあたってうずくので、手を前に出した、まるで幽霊のような格好になっていました。職場にはほかにもガラスが刺さったりしてけがをした人もいました。外では、立っている電柱や立ち木が燃えていました。付近のあちこちで火の手が上がり、火を消してまわりましたが、木造のものは全部燃えてしまいました。建物の外に目をやると、火と煙が

一面に広がっていました。市街の中心部から傷ついた人がこちらへぞろぞろと歩いて来て「水をくれ」と言うと、一人二人と倒れて亡くなっていきしました。羽を焼かれて飛べなくなり、歩いている鳥も見ました。

そのような中、何日間も職場で過ごしました。その間は、そこまで被害が大きくなかった宇品の方で米をもらって職場へ戻り、避難している人に米を炊いて提供したりしていました。当時、職場と同じ皆実町に下宿していました。下宿はガラスが全て割れたものの焼けではい wasn't でしたが、米の炊き出しなどがあつたため職場に寝泊まりしていました。4〜5日経ったころ、広島地方専売局の竹原出張所や尾道出張所などの同僚たちが、米を持って応援に来てくれました。それから当時の上司が白島に避難しているとの情報が入り、白島へ会いに行きました。

焼けた町の中を歩きましたが、途中、学校では生徒が並んだ状態で亡くなっていたり、防火用水に頭を突つ込み亡くなっていたりと、とにかくあたり一面が死体の山でした。川には亡くなった人が次から次に流れてきて、1〜2週間は死体がありました。死体は軍隊がトラックで宇品へ運んでいきました。

しばらくして父が警察の車で庄原から己斐まで来て、そこから歩いて皆実町までおむすびを持って迎えに来てくれましたが、家が焼けて帰れない人も

平成28年度 庄原市戦没者追悼式 並びに平和祈念式典



本市の戦没者に哀悼の意を表すとともに、再び戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、恒久平和を祈念するため、庄原市戦没者追悼式並びに平和祈念式典を開催します。多くの皆さんの参加をお願いします。 (申し込みは不要です。)

とき 8月24日(水) 10時

ところ 庄原市民会館

※当日は要約筆記による案内に加え、イントラネットでの中継も行いますので、各支所や各学校、自治振興センターなどでもご覧になれます。

※各支所から送迎バスを運行します。利用希望の方は、8月16日(火)までに各支所に申し込んでください。(定員に限りがありますので、ご希望に添えない場合はご了承ください。)

問い合わせ

社会福祉課障害者福祉係

☎0824・73・12110

各支所市民生活室・地域振興室

※8月25日(木)〜8月31日(水)〔土・日を除く〕市役所市民ホールで、恒久平和を祈念して、「折鶴」や「戦没者の遺品・手紙」などを展示します。市役所へお越しの際はぜひご覧ください。



「よく参っちゃったの」という気持ちになりました。これまでのアメリカ大統領は、来日しても慰霊碑にお参りすることはありませんでした。直接的な謝罪の言葉はなかったにせよ、全く見向きもされないよりは来られてよかったなと思いました。

米大統領の広島訪問

たくさんいたので、庄原へは帰らず、1カ月は焼け出された人たちを助けていました。そういう生活を送りました。そうしているうちに、アメリカ軍が行進しながら広島市内へ入ってきました。

放射能による影響については、当時はよくわからなかったし、不安はそんなにありませんでした。影響がでた人もいますが、私は今もこうして元気で生活しています。どうして元気でいられるのかはよく分かりません。

戦争を知らない人たちへ

原子爆弾より強力な水素爆弾などでもできた今、戦争が起こればひどいことになります。生きてはられないでしょう。長距離ミサイルも飛んでくるかもしれません。本当に大変なことになるので、戦争をしようと思うことがあつてはならないと思います。戦争では日本も攻められるだけでなく、外国に攻めて行き、敗戦後には、満州にいた人はソ連に連れて行かれて強制労働させられたりもしています。戦争に関わると、どの立場の国にも被害があります。戦争をしないということが第一。元気でいられるのが一番幸せで、仕事ができることがうれしいと思います。

